

研究会報告

物流研究会

<http://logistics.j-navigation.org/index.html>

1. 2016 年度秋季研究会

(1) 日時：平成 28 年 10 月 28 日 (金)

13:30~17:30

(2) 場所：マツダ株式会社

(広島県安芸郡府中町新地 3-1)

(3) 見学会の内容

本研究会では「国際物流」をテーマにした研究を進めることを目的としている。具体的には、港湾のオペレーションやそのあり方に関する研究、および国際物流の実態を明らかにするとともに、今後の課題について提言することである。

2016 年度秋季研究会では、秋季講演会会場（広島県呉市）に比較的近い「自動車製造の物流システム見学」について、マツダ株式会社に御協力頂くことになった。

なおバスチャーターを条件としての見学許可が出たため、学会からの研究補助金の一部をバスチャーター代に使用した。また構内は写真撮影禁止のため、見学者の集合写真のみを掲載する。

当日の日程は、下記のとおりである。

13:30 JR 広島駅、新幹線口広場バス乗降場
集合

14:30 マツダ (株) 本社・本館ロビー到着

14:30~15:20 マツダ (株) 概要、車両物流
概要、調達物流概要の説明

15:20~15:45 プライベートバス見学

15:45~17:00 マツダミュージアム見学

17:00 マツダミュージアム出発

17:30 JR 広島駅解散

■ マツダ (株) 本社会議室にて、完成車の輸出に関わる国際物流の流れについて、また自動車部品のサプライチェーンに関わる調達物流の概要について情報提供があった。

【完成車に関連して】

5 日前までなら変更できるが、最近では見込み生産から受注生産へ移行しつつある旨の説明があった。国内輸送の場合、完成車は工場から流通センターを経由して販売会社に送られるが、アクセサリーの取付けなど完成車における流通加工（付加価値の付与）の大部分を流通センターで行われている。なお流通センターは国内に 6 か所あり、車種によって分かれている。

表 1 生産拠点

国内	広島本社工場（本社、宇品）、防府工場（西浦、中関）、三次事業所
海外	中国、タイ、メキシコ他

出典：マツダ会社案内 2016

またエリア別の販売市場シェアは、北米は 28.6%、欧州 16.8%、中国 15.3%、日本が 15.1%、その他 24.3%となっている。

表 2 2015 年度トップ 10 販売市場

1 位：米国、2 位：中国、3 位：日本、
4 位：豪州、5 位：カナダ、6 位：ドイツ、
7 位：メキシコ、8 位：英国、9 位：タイ、
10 位：ロシア

出典：マツダ会社案内 2016

【国際輸送に関連して】

広島本社プライベートバスには、北米航路は 10 日に 1 回寄港し、満載にして輸出している。内航船は 2 日に 1 便寄港している。邦船 3 社の船を仕向地や航路で利用している。

広島からの輸出は 53%、その他は神戸、大阪、名古屋まで内航船で運び、そこから大型船に積替えて輸出している。

欧州エリアへは Zeebrugge 港を利用する場合と、シベリア鉄道を利用する場合がある。またタイ工場へは、レムチャバン港を利用し、北米エリアへはメキシコ工場から鉄道で輸送

するケースが多い。

1回の本船荷役では、4,000台の積込みが最大で、夜間を除き2日かけて荷役する。

【部品サプライチェーンの調達物流】

取引先と工場の間で部品などの輸送には、以前は取引先が個別に搬入していたが、最近ではマツダがトラックを仕立てて部品を回収するミルクラン方式を採用している。ミルクランエリアは、中国・関西地区、中部地区、北九州地区に分かれており、海外ではメキシコでも実施している。なお部品の輸送にはモーターシフトを意識して一部鉄道による輸送も行っている。ベトナムやイランはノックダウン（Knock Down、KD）国であり、現地組み立てを行う拠点となっている。

部品の輸送には環境への配慮から、段ボールをなるべく減らす方向で進めており、繰り返し使えるリターナブル・ラックを使用するようにしている。

中国向けの貨物は海田地区と出島地区にあるKDセンターでコンテナにバンニングしており、1ヶ月に3,000本が取り扱われている。40f'背高コンテナを利用することが多い。

コンテナ内の積付けには、ラック単位で行うため、空きスペースをなるべく減らし、本数を少なくして済むように工夫している。

部品の種類を減らすことも検討しており、そのためには規格の統一化も検討されている。

コンテナを利用した部品の輸出には釜山港または神戸港を利用している。

■ プライベートバースでは、自動車専用船PCCのターミナルでの情報提供があった。



マツダミュージアムロビーにて

当日は、自動車専用船PCC（NYK VOLANS LEADER、総トン数61,775トン、載貨重量トン20,168トン、全長199.94m×幅32.26m）が荷役中であり、荷役の様子や次の船に積載予定の完成車がターミナルに保管されている様子を見ることが出来た。外貿バースと内貿バースが隣接しており、外貿バースでは200mを超えない船のみが係留可能となっている。

■ マツダミュージアムでは、自動車メーカーとしてのマツダ（株）の歴史、車種の変遷、ならびに自動車製造工程の作業現場について見学し、詳細について情報提供があった。

（当日参加者6名）

2. 2016年度秋季運営委員会

(1) 日時：平成28年10月31日（月）

～11月2日（水）

(2) 場所：メール審議による（見学会当日、講演会期間中に実施できなかったため）

(3) 議題

- ・2017年春季研究会での実施内容について見学会または講演会のいずれを実施するのかについて検討した。

2017年度秋季研究会にて見学会開催が難しい場合には、2017年度春季において見学会を実施することになるが、羽田空港近くの物流施設見学、または食品メーカーの工場見学などが候補として挙がり、いずれも見学予約は容易である旨の情報提供があった。また大学院生による研究発表を中心とした講演会を希望するご意見もあり、具体的な講演テーマも挙がっていることから、講演会を実施する方向に進めることになった。

- ・運営委員会の構成メンバーについて

前研究会会長で現運営委員の永岩健一郎先生（広島商船高等専門学校）の退任希望の申し出があり、審議の結果、退任を認めることとなった。これに伴う、運営委員の補充について議論した。候補として内諾を得ていた広島商船高等専門学校の鈴木理沙先生について、運営委員への就任を審議した結果、承認された。2017年4月より運営委員として活動開始予定である。

（幹事：西村悦子）